

令和5年度 鹿角市立十和田中学校 学校評価書

<参考表示>

目標	市の施策の基本方向	評価指標（学校の実践課題）	自己評価 中間	外部評価 中間	自己評価 年度末	外部評価 年度末	市の施策の柱
確かな学力と高い志を育てる教育の充実	基本方向1 自己実現のために必要な確かな学力の定着を図ります。	○探求型授業プロセスをベースにした授業改善 ○生徒指導の機能を活かした望ましい学習集団づくり ○読書活動の推進（朝読書の推進・生徒主体による読書活動の推進）と授業と連動した読解力の育成（ビブリオバトルの実践）	3	3	3	3	①なぜ学ぶのかを明確にした主体的・対話的で深い学びの実現 ②望ましい学習集団の育成による児童生徒の学力向上対策 ③読書活動の推進と読解力の育成
	基本方向2 自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材を育てます。	○発達段階に応じたキャリア教育の推進（望ましい勤労観・職業観等の育成・進路指導の充実） ○地域に学び、地域に貢献する気概をもった生徒の育成（TAPの活動内容の充実・地元企業との連携・ライフスタディの充実） ○地域と連携した地域を元気にする取組の実践（地域活動・行事・ボランティア活動への参加奨励・生徒の学習成果の披露）	3	3	4	4	①社会的・職業的自立を目指した教育活動の推進 ②ふるさとへの理解を深める体験的な活動の推進 ③鹿角市の未来を支え盛り上げる人材の育成
	基本方向3 情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材を育てます。	○学びの質を高めるICTの活用と情報モラル教育の推進（ICTを活用した主体的な学習の構築・関係機関と連携した情報モラル教育の推進） ○コミュニケーション能力（TPOにあった話し方）の向上とグローバル化に対応した情報発信 ○鹿角のよさ、十和田のよさを知り情報発信できる生徒の育成（TAP活動内容の充実による情報発信）	4	4	4	4	①ICTを活用した情報活用能力と情報モラルの育成 ②グローバル化に対応する能力の育成 ③他地域との交流によるコミュニケーション能力と発信力の育成
豊かな心と健やかな体を育み、将来の自立を支える教育	基本方向4 豊かな心を育みます。	○活力ある集団活動を通じた居心地のよい集団づくりと豊かな人間性の育成（自尊感情・自己肯定感の醸成） ○道徳教育の充実と「特別の教科 道徳」授業実践による道徳的判断力・心情・実践意欲の育成 ○いじめ防止と教育活動全体を通じた人権教育の推進	3	3	3	3	①自己有用感と主体性を育む学習集団の育成 ②規範意識や思いやりなどを育成する道徳教育の充実 ③共生社会の形成に向けた人権教育の推進
	基本方向5 健やかな体を育みます。	○家庭との連携による望ましいライフスタイルの構築（HANキャンペーンの実施） ○食に関する指導の充実と家庭と連携した望ましい食習慣の形成 ○健康と体力の保持増進と運動に主体的に取り組む生徒の育成（新体力テストの実施と分析・保健体育科、委員会、部活動における体力向上の取組）	3	3	3	3	①規則正しい生活習慣の確立 ②食育の推進 ③体育授業及び運動部活動の充実と体力の向上
	基本方向6 子ども一人一人に応じた、きめ細かな教育を推進します。	○ユニバーサルデザインの視点による授業づくりと教育ニーズに応じた多様な学びの場の構築 ○小中連携による情報の共有の場の構築と個別支援の充実（学習支援、相談活動） ○不登校の未然防止・不登校への適切な対応（学習支援等）と教育相談の充実	3	3	4	4	①特別支援教育の充実 ②就学前相談の充実と小・中学校との円滑な接続 ③不登校児童生徒の居場所づくりと学校復帰に向けた支援の充実
学校教育環境の充実を図り、地域とともに取り組む、多様で質の高い教育	基本方向7 子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場をつくり出します。	○校舎内外の安全確保と活動が見える潤いある学校環境整備 ○自分の命は自分で守ることができる生徒の育成と通学時の安全対策 ○教職員の危機管理能力の育成（学校の危機管理・教職員の不祥事防止）	4	4	4	4	①安全・安心・良質な学校環境づくりの推進 ②通学の安全対策 ③学校の危機管理対策
	基本方向8 教職員のモチベーションと資質の向上を図ります。	○計画的な校内研修の実施と諸調査の活用及び校外研修の奨励と研修内容の共有 ○キャリアに適した業績目標の設定とOJT（OJL）による人材育成 ○業務改善計画の作成と評価及びボトムアップによる業務改善と教職員の意識改革	3	3	3	3	①教職員研修の充実 ②人事評価制度とキャリアアップ研修の充実 ③教職員の働き方改革の推進
	基本方向9 地域とともに特色ある学校づくりの推進に努めます。	○コミュニティスクール機能の充実（学校経営ランドデザインの承認・学校評価等）と熟議による地域課題の共有 ○地域資源（史跡、企業、人材、施設）の積極的な活用と地域に開かれた学校づくり ○地域と連携した特色ある学校づくり・地域伝統芸能の継承に係る活動の奨励	3	4	4	4	①学校運営協議会を核としたコミュニティ・スクールの推進 ②地域学校協働推進事業による学校の活性化 ③学校の創意工夫による特色ある学校経営の推進

5	きわめて良好
4	良好
3	おおむね良好
2	やや不十分
1	努力を要する

5	実現状況は極めてよい	達成率90%以上
4	実現状況は良好である	達成率80~90%
3	実現状況はおおむね良好である	達成率60~79%
2	実現状況はやや不十分である	達成率50~59%
1	実現状況は不十分で努力を要する。	達成率49%以下

基本方向1 「自己実現のために必要な確かな学力の定着」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	落ち着いて授業に参加している。朝読書の取組状況もよい。	中間	3	中間	3	「学び合い」を充実させるために、基礎的・基本的な学力の定着と自分の思いや考えを発表しようとする気持ちや場の雰囲気大切にしていたください。
年度末	授業での反応も比較的良好、落ち着いて学習に取り組んでいる。	年度末	3	年度末	3	生徒・教師の信頼の中で学習習慣が定着してきている環境は評価できる。ビブリオバトルの取組はとても素晴らしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・十和田中学校探究型授業プロセス「かいたく」の実践は重ねられている。「学び合い」「振り返り」などの実践共有もなされている。授業を見合う会を設定して更なる共通理解・実践交流を行いたい。どうしても教師主導になりがちなので、意識的に生徒に学びを委ねる仕掛けや取組を部分的にでも入れていければと思う。 ・読書については、日々の実践を見直して図書委員の自覚を促し、よい習慣ができつつある。2学期のビブリオバトルの準備もさることながら、鹿角の図書館100周年を記念しての活動にも力を入れたい。					
	【年度末評価】 ・授業を見合う会を通して実践交流も図られ、少しずつ授業の意図や生徒の反応を共有して、授業への理解を深めることができた。学習習慣も定着してきており、じっくり取り組める環境は整っていると思われる。 ・読書はイベントをテーマにして、取組を行った。ビブリオバトルも無事行うことができていますが、子供たちの読書に向かう意欲にはまだ課題がある。形を変えて工夫していく必要がある。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
○探求型プロセスをベースにした授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・十和田中学校探究型授業プロセス「かいたく」の実践 ・必要性や必然性のある学習課題の設定 ・思考を広げ深める学び合いの工夫 ・学びを価値づける振り返り
○生徒指導の機能を活かした望ましい学習集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・hyper-QUの実施（年2回）と分析・情報交換 ・hyper-QUの個票の活用
○読書活動の推進と授業と連動した読解力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の15分間読書の実施 ・委員会活動の充実（図書コーナーの設置、本の紹介等） ・全校ビブリオバトルの試み

<資料>

		肯定的な回答の割合				
			平均値	生徒	保護者	教職員
質問①	授業・学習に意欲的である。	中間	82%	95%	65%	85%
		年度末	83%	93%	62%	95%
質問②	授業で自分の思いや考えを発表している。	中間	50%	56%	43%	
		年度末	60%	66%	53%	
質問③	読書活動に積極的である。	中間	80%	88%	57%	95%
		年度末	84%	88%	64%	100%

基本方向2「自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	地域や外部機関と連携しながら、ふるさとを愛する心をもった生徒に育てるように取り組んでいる。	中間	3	中間	3	活動が充実していることは評価できるが、目新しさに欠けてきていることも否めない。地域の歴史・文化・先人などの取組も検討していただきたい。
年度末	地域内での活動や地域の方々、外部施設を利用してふるさとを愛し、見つめ直すような取組を行ってきた。	年度末	4	年度末	4	TAPの発表を学校祭で拝見し、生徒自ら課題解決に向けての取組が見られた。マナー化しないよう、更なる工夫をしチャレンジしながら外への情報発信に力を入れてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・1年生は、校外学習で大館少年自然の家に宿泊して活動することができた。 ・2年生は、鹿角市教育センターと連携して、地元企業等で職場体験学習を行い、キャリア育成することができた。 ・3年生は、修学旅行で、震災のあった地域とふるさと鹿角を比較検討し、ふるさとに対する愛着心をもつことができた。 ・十和田魅力アッププロジェクトは、全校縦割りで計画的に進めることができています。					
	【年度末評価】 ・大館地区の高校説明会を2年生で行った。また、各学年で進路に関する学習を計画的に進められた。 ・十和田魅力アッププロジェクトは、全校縦割り活動で計画的に進めることができていますが、活動の内容に改善の余地があると感じている。現在の活動の魅力アップと新しい活動の導入を含め検討していきたい。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
○発達段階に応じたキャリア教育の推進	・校外学習での職業講話の実施（1年生） ・職場体験学習の実施（2年生） ・高校説明会等の実施（今年度は2年生で実施）
○地域に学び、地域に貢献する気概をもった生徒の育成	・十和田魅力アッププロジェクト（TAP）の実施 ・地元企業と連携した「ライフ・スタディ(キャリア講話)」
○地域と連携した地域を元気にする取組の実践	・保存会と連携した毛馬内盆踊り講習会の実施 ・学校祭を通じた学習成果の発信 ・生徒会におけるボランティア活動への取組

<資料>

肯定的な回答の割合			平均値	生徒	保護者	教職員
質問④	進路や職業（職場）に関する学習で望ましい勤労観や職業観が育成されている。	中間	76%	91%	46%	90%
		年度末	84%	93%	60%	100%
教師⑤	TAP活動や地域住民・地元企業と連携した取組は、地域に学び、地域に貢献しようとする生徒の育成につながっている。	中間	90%			90%
		年度末	100%			100%
教師⑥	伝統芸能の継承や、ボランティア活動、学校祭における学習成果の発表等を通して地域に元気を発信している。	中間	85%			85%
		年度末	100%			100%

基本方向3「情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	各学年によって習熟度に差があり、活用できる場面が限られていた。TAPへの取組状況はよい。	中間	4	中間	4	ICTを活用した授業や他校とのオンライン交流など、常に先進的な取組をしていて評価できる。情報モラルについての指導が課題になるが、指導方法等を工夫して成果をあげてほしい。
年度末	2・3年生は勿論、1年生のICT活用スキルが向上し、授業の中で効果的な使用ができています。	年度末	4	年度末	4	ICTの活用については先進的な取組が行われている。ICTの活用を目的とせず、授業のみならず学校生活全般においても活用が図られている。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・ICTの活用に関しては、授業や委員会活動、朝の健康観察など、生徒が上手く使いこなしている。学校生活の多くの場面でICTを活用することができている。 ・課題は、情報モラルに対する意識が低さで、学校外でのメディア使用方法も含めて指導の必要がある。					
	【年度末評価】 ・ICTは授業だけではなく、特別活動や委員会活動などでも日常的に活用され、作業効率の向上と時間短縮につながっている。 ・TAPの活動を通じて各プロジェクトともICTの活用はよいと感じている。情報発信の面では十中祭がメインとなっているが、他の情報発信の方法も検討していきたい。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
○学びの質を高めるICTの活用と情報モラル教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各教科および特別活動等におけるICTの活用の推進 ICT活用研修会の実施と情報提供 各教科におけるICTの活用と情報モラルの指導 情報モラル教室の開催（生徒指導部）
○コミュニケーション能力の向上とグローバル化に対応した情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 学級による話し合い活動や生徒会活動、集会活動の充実（TPOにあった話し方）
○鹿角のよさ、十和田のよさを知り情報発信できる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 十和田魅力アッププロジェクト（TAP）の実施（活動内容の充実による情報発信） 校外学習の実施

<資料>

		肯定的な回答の割合	平均値	生徒	保護者	教職員
質問⑤	タブレット端末など教育ICTの活用が図られている。	中間	95%	97%	88%	100%
		年度末	96%	98%	91%	100%
質問⑥	生徒会活動や学級活動の発表によって表現力やコミュニケーション能力が身に付いている。	中間	86%	85%	73%	100%
		年度末	89%	89%	77%	100%
質問⑦	TAP活動、校外学習、職業講話、職場体験等を通して、ふるさとのよさを知ることができている。	中間	89%	91%	81%	95%
		年度末	94%	95%	87%	100%

基本方向4 「豊かな心の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	道徳の授業を通して、仲間と交流し、じっくり考える姿が見られた。	中間	3	中間	3	道徳の授業やhyper-QUの活用など、生徒の実態把握に努めている。生徒が居心地がよいと感じることができるよう、学級指導を継続してほしい。
年度末	合唱コンクールや球技大会を通して学級の結束力に高まりが見られた。	年度末	3	年度末	3	hyper-QUの結果を効果的に活用している。道徳の授業についても実践が積み重ねられているので家庭との連携を大切にほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・道徳の授業の中で、級友の考えに触れることで自らの考えを深めることができていた。全学級で道徳の掲示コーナーを活用し、考えを見える化していた。いじめ防止の観点からも、いじめを題材とした教材を用いて授業することができた。道徳アセスメントの結果を活用し、道徳性を高めていきたい。 ・hyper-QUを実施し、研修会で各学級の分析を行った。話し合ったことを2学期に活用していきたい。					
	【年度末評価】 ・各教室で、道徳の掲示物が充実してきた。道徳の取組の成果や内容を保護者と共有するための方策を考え、実行して行きたい。 ・hyper-QU（1回目）の結果から、個に対する具体的な支援をしたり、集団に対する働きかけを行ったりしたことが成果に表れてきている。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
○活力ある集団活動を通じた居心地のよい集団づくりと豊かな人間性の育成	・一人一人の居場所がある学級づくり ・hyper-QUの実施（年2回）と分析・情報交換 ・生徒指導共通実践マニュアルの徹底（自尊感情・自己肯定感の醸成）
○道徳教育の充実と「特別の教科 道徳」授業実践による道徳的判断力・心情・実践意欲の育成	・道徳ノート（ポートフォリオ形式）の活用 ・学校、学年重点目標の設定 ・特別活動、生徒指導、総合的な学習の時間における重点の設定
○いじめ防止と教育活動全体を通じた人権教育の推進	・生活に関するアンケート調査の実施による早期発見と早期対応 ・スクールカウンセラー等の活用による相談活動の充実

<資料>

		肯定的な回答の割合	平均値	生徒	保護者	教職員
質問⑩	学級や学校は居心地のよい場所になっている。	中間	85%	92%	88%	75%
		年度末	90%	88%	82%	100%
質問⑪	道徳の授業や道徳教育で、道徳的判断力・心情・実践意欲の育成が図られている。	中間	95%	97%	88%	100%
		年度末	93%	97%	81%	100%
質問⑫	生活に関するアンケート調査・カウンセラーの活用は、いじめや問題行動の防止になっている。	中間	87%	87%	80%	95%
		年度末	86%	88%	74%	95%

基本方向5 「健やかな体の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	9割程の生徒が朝食を食べてきている。就寝前のメディア利用の多さが課題である。	中間	3	中間	3	食生活の指導の成果や主体的に運動に取り組む姿など、指導お工夫が見られる。家庭との情報交換や連絡を密にして、さらに連携を深めてほしい。
年度末	年度初めよりも朝食もメディア利用もわずかながら後退している。	年度末	3	年度末	3	体力づくり、健康づくりの基本と言える「食」に対して課題があるので、生徒の意識改革を進め家庭との連携を強化してほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・HANキャンペーンの実施状況の生徒の提出率が低く、結果を通知することができなかった。提出率が向上できるように工夫をし、保護者の協力も仰ぎながら家庭との結びつきを深める取組にしていきたい。 ・全校生徒が新体力テストを行い、結果を集計システム「ALPHA」に入力し、結果分析したことで、生徒は自分の体力を直ぐに確認でき、主体的に運動に取り組む姿勢につながった。					
	【年度末評価】 ・学年間で多少傾向は異なるが、残食が多いので、口から入るもので自分の体がつくられるという意識をより高めていきたい。給食だよりの読み合わせや、昼の放送「おいしいつぶやきの時間」をしっかりと拝聴させたい。 ・昼休みの体育館開放で、体育委員が運動の呼びかけを行っている。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
○家庭との連携による望ましいライフスタイルの構築	・HANキャンペーンの実施 （早寝早起き・朝ご飯・メディアコントロール） ・三者面談を通じた保護者との生活習慣に係る課題の共有
○食に関する指導の充実と家庭と連携した望ましい食習慣の形成	・委員会活動による望ましい食習慣の形成
○健康と体力の保持増進と運動に主体的に取り組む生徒の育成	・新体力テストの実施と分析 ・保健体育科の授業実践による体力の向上 ・部活動における体力向上の取組 ・鹿角校長会中学校部会統一実践事項

<資料

		肯定的な回答の割合	平均値	生徒	保護者	教職員
質問⑬	HANキャンペーン、委員会活動、三者面談等による家庭との連携は望ましい生活習慣の形成につながっている。	中間	74%	87%	60%	75%
		年度末	79%	82%	55%	100%
質問⑭	給食だよりの読み合わせ等による食に関する指導と家庭との連携は、望ましい食習慣の形成につながっている。	中間	86%	85%	87%	85%
		年度末	89%	84%	87%	95%
質問⑮	新体力テストの実施分析、保健体育や部活動等における取組は、主体的な体力向上につながっている。	中間	89%	89%	84%	95%
		年度末	88%	86%	78%	100%

基本方向6 「子ども一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育の推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント		
年度初め	落ち着いて生活していて仲間同士の関係もよい。小学校から引き継ぎもあったが、学習面で指導に力を入れていく必要がある。	中間	3	中間	3	様々な方法で個に対する指導を強めている様子が伺える。安心して授業を受けている姿を見ることができた。生徒の困り感に即時対応していることが分かった。		
年度末	生徒は、T TやICTを活用した授業で、理解や考えを深めている。別室登校生徒の登校状況も良くなってきている。	年度末	4	年度末	4	個に応じた取組に成果が出ていると評価できる。今後とも小学校やスクールカウンセラー等との連携を深めてほしい。		
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・教室前面をはじめ、教室内の掲示は質素に完成できている。統一感のある学びの場づくりを心がけたい。 ・「個」「ペア」「グループ」の活動は、ICTを有効活用しながら進めることができている。ただし、個別の習熟度や理解度に大きな差があり、対応にも時間がかかる現状がある。検査等も取り入れながら、個別の最適な学習方法についても職員で話し合いながら進めている。 ・小学校と連携して1年生の生徒について共通理解が図られた。学区研では、学習指導・生徒指導の部会で小中連携できた。							
	【年度末評価】 ・hyper-QUの結果を活かし、要支援生徒に適切な対応をとっている。スクールカウンセラーとの連携を密にして悩みを抱えた生徒の支援や、生徒支援加配教諭が相談室や別室登校生徒をコーディネートしている。 ・生徒指導面で小学校と連携することを大切にして、問題解決を図っている。							
評価指標（学校の実践課題）				具体的な取組内容				
○ユニバーサルデザインの視点による授業づくりと教育ニーズに応じた多様な学びの場の構築				・教室前面掲示の簡素化 ・個、ペア、グループ等学習形態の工夫 ・教育ICTの有効活用				
○小中連携による情報の共有の場の構築と個別支援の充実				・学区研修会による情報共有 ・特別支援教育支援員の活用 ・教育相談の実施				
○不登校の未然防止・不登校への適切な対応と教育相談の充実				・諸調査による不登校傾向生徒の早期発見 ・ケース会議の実施と早期対応 ・不登校生徒への学習支援 ・不登校生徒およびその保護者との定期的な面談・相談活動				
< 資料 >								
			肯定的回答	きわめて良好	良好	概ね良好	やや不十分	努力を要す
教職員⑯	教室前面掲示の工夫、学習形態の工夫、ICTの活用等によりユニバーサルデザインの視点による授業づくりが行われていますか。	中間	95%	5%	35%	55%	5%	0%
		年度末	95%	0%	40%	55%	5%	0%
教職員⑰	学区研修会（小中連携）、ケース会議、相談活動の実施により、情報共有の場の構築と個別支援の充実が図られていますか。	中間	95%	5%	50%	40%	5%	0%
		年度末	100%	0%	30%	70%	0%	0%
教職員⑱	教育相談やケース会議、個別支援等の実施により、不登校の未然防止と不登校生徒への適切な対応がなされていますか。	中間	90%	0%	40%	50%	10%	0%
		年度末	95%	0%	55%	40%	5%	0%

基本方向7「子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場づくり」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	学校安全日を設定し、毎月、全職員で安全点検を行っている。また、校舎内外の危険箇所や通学路の確認も行っている。	中間	4	中間	4	学年部輪番制による学校危機管理・不祥事防止研修会の実施や各種訓練、安全点検を日常的に行っていて危機管理に気を配っている様子が伺えた。
年度末	登下校における事故は昨年度より大幅に減少している。避難訓練の取組の様子から生徒の安全意識が高まっている。	年度末	4	年度末	4	安全日を設定する他、PTAの連携で危機管理に配慮し、安全・安心、そして良質な学びができていていると感じる。常に、危機意識を持ち続けることが大切である。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・毎月、1日を学校安全日として設定し、全職員で管理箇所等の安全点検を行っている。修繕等が必要な場合には即座に対応し、生徒が安全に学校生活を送ることができるようにしている。 ・PTA厚生部主催のグラウンド及び校舎周辺整備作業に多数の保護者の参加があった。 ・6月に洪水避難移動訓練を行った。水防法に基づく訓練内容だったが、生徒の振り返りから、緊張感が足りなかったという反省があったため、今回は指導を強め真剣に取り組ませたい。					
	【年度末評価】 ・回数は多くないが、計画的に街頭指導を行った。問題行動が発生した時、生徒指導部からの方策が全校生徒で共有できるように提示されたことが功を奏している。 ・避難訓練を、余震が度々起こる設定で初めて行った。また、停電が発生し、怪我人を救出するという訓練も合わせて行い、生徒は真剣に取り組んだ。そして、課題等を共有することができた。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
○校舎内外の安全確保と活動が見える潤いある学校環境整備	・学校安全日の設定と安全点検の実施 ・PTA活動における除草作業の実施
○自分の命は自分で守ることができる生徒の育成と通学時の安全対策	・通学路の安全点検の実施 ・スクールバス乗車、下車時の安全指導 ・交通安全集会の実施 ・避難訓練の実施
○教職員の危機管理能力の育成	・学年部輪番制による学校危機管理・不祥事防止研修会の実施 ・管理職による不祥事防止研修資料の提供

<資料>

		肯定的な回答の割合	平均値	生徒	保護者	教職員
質問⑯	交通安全教室・避難訓練の実施、通学路の安全点検やスクールバスの乗下車指導等により安全教育の充実が図られている。	中間	97%	100%	96%	95%
		年度末	97%	100%	90%	100%
教職員⑲	毎月の安全点検の実施やPTAの環境整備活動等により、校舎内外の安全確保と潤いのある学校環境整備がなされている。	中間	95%			95%
		年度末	100%			100%
教職員⑳	学年部輪番制による学校危機管理研修や管理職からの情報提供により、教職員の危機管理能力の育成が図られている。	中間	90%			90%
		年度末	100%			100%

基本方向 8 「教職員のモチベーションと資質の向上」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント		
年度初め	教職員のICT活用能力は高く、日々、情報共有しながら教育活動を展開している。授業においても、毎時間ICTを活用している。	中間	3	中間	3	教職員は、心身共に健康で、活き活きとした生活が絶対的条件となり、生徒・保護者に尊敬される存在でありたい。熟識からも先生方の熱意が伝わった。		
年度末	教職員のICTスキルや授業力が向上したことで、授業での生徒の姿がよくなっている。	年度末	3	年度末	3	各種研修会に参加し、授業改善に取り組む職員の姿が伺える。学校運営・学力向上・生徒の成長・職員の資質向上など、各人の情熱によるところが大きい健康にも留意してほしい。		
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・校内研究については、校内授業研究会を中心に研修を進めることができている。ICTを取り入れながら昨年に劣らず進めることができた。ICT支援員の活用が進み、少しずつ日々の授業も改善されてきている。職員室での学び合いも日常的になってきていると感じる。外部研修についても価値の高いものは職員会議で共有が図られている。 ・全国学テ、標準学力検査の結果は、全国とほぼ同等であると見て取れるが、2年生の結果にやや不安が残る。							
	【年度末評価】 ・授業研究会においてもICTを活用し、各チーム毎に研究内容を深めることができた。 ・県学習状況調査において、諸調査の結果をもとに復習すべき学習内容を振り返り、授業改善した結果が表れた。校内授業研や各種研修会に参加したことで職員の資質向上が図られた。							
評価指標（学校の実践課題）		具体的な取組内容						
○計画的な校内研修の実施と諸調査の活用及び校外研修の奨励と研修内容の共有		・校内研究、研修計画の立案 ・全国学テ、県学状、QU検査等の活用 ・教育ICT活用推進に係る研修の充実 ・初任研メンターチームによる研修の充実						
○キャリアに適した業績目標の設定とOJT（OJL）による人材育成		・評価面談の実施による業績目標の設定 ・分掌チームによる若手教員の育成						
○業務改善計画の作成と評価及びボトムアップによる業務改善と教職員の意識改革		・業務改善計画の周知 ・最終退校時間の設定とその厳守 ・「やめる・減らす・変える」視点による学校行事の見直し						
<資料>								
			肯定的回答	きわめて良好	良好	概ね良好	やや不十分	努力を要す
教職員②	校内研究会、諸調査の活用、ICT活用の推進等により、教職員の資質向上が図られていますか。	中間	100%	5%	52%	43%	0%	0%
		年度末	100%	5%	55%	40%	0%	0%
教職員③	評価面談の実施、分掌チームによる若手職員の育成、校内外の各種研修の充実等により人材育成が図られていますか。	中間	95%	5%	48%	43%	5%	0%
		年度末	90%	5%	50%	35%	10%	
教職員④	最終退校時間の厳守や学校行事の見直し等により、教職員の働き方に対する意識改革が図られていますか。	中間	86%	0%	29%	57%	14%	0%
		年度末	75%	5%	5%	65%	25%	0%

基本方向 9 「地域とともに特色ある学校づくりの推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	全校縦割りでの十和田魅力アッププロジェクトや生徒等を交えた熟議（学校運営協議会）に通じ組んでいる。	中間	3	中間	4	地域との連携を視野に「地域が学校に望むこと」「地域から学校へ望むもの」を明確にしながら、TAP活動の充実を図ってほしい。情報発信や交流活動をより積極的に進めてほしい。
年度末	全校縦割りでの十和田魅力アッププロジェクトの成果を学校祭で公開し、各プロジェクトともに工夫が見られた。	年度末	4	年度末	4	地域に開かれ、地域とともに歩み成長する学校として、更なる深化の追求を期待している。地域を盛り上げる新たな活動などを実施し、その情報発信を積極的に行ってほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・4月に、第1回学校運営協議会を実施し、今年度の学校経営の方向性等について承認を得た。夏休みに行われる第2回学校運営協議会では、委員と全教員に加え、生徒代表等による熟議を行う予定である。 ・毛馬内盆踊り講習会（1年）、ストーンサークル夏至祭（吹奏楽部員14名参加）等を実施した。また、十和田魅力アッププロジェクトにおいて、毛馬内盆踊り保存会員、大湯環状列石ガイド、劇指導員（尾樽部和太さん）等の地域の方々と連携し、計画的に取組を進めることができています。					
	【年度末評価】 ・十和田魅力アッププロジェクトにおいて、17名の外部の方々からご指導いただき、教育活動を展開した。外部施設を6カ所、訪問し交流することができた。 ・ここ数年間で初めて、地域学校協働活動で家庭科の調理実習において地域の方に支援していただいた。 ・第2回学校運営協議会で、予定通り熟議を行い、活発な意見交換ができた。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
○学校運営協議会機能の充実と熟議による地域課題の共有	・学校経営グランドデザインの承認・学校評価等 ・熟議による地域課題の共有
○地域資源（史跡、企業、人材、施設）の積極的な活用と地域に開かれた学校づくり	・学校と地域双方向による地域資源の活用 ・学校地域協働実施本部事業の活用
○地域と連携した特色ある学校づくり・地域伝統芸能の継承に係る活動の奨励	・毛馬内盆踊り等地域伝統芸能に係る講習会の実施 ・地域伝統芸能事業への参加奨励 ・TAP活動の充実

< 資料 >

肯定的な回答の割合			平均値	生徒	保護者	教職員
保護者⑰	学校だより・学年通信・学校メールの配信等によって、学校の様子が家庭に伝えられている。	中間	97%	/	97%	/
		年度末	93%		93%	
教職員⑳	学校地域協働実施本部事業の活用、熟議による地域課題の共有、学校評価等により学校運営協議会機能の充実が図られている。	中間	81%	/	/	81%
		年度末	100%			100%
教職員㉑	地域資源（人材・企業・施設・史跡等）の活用や、地域に開かれた学校づくりが行われている。	中間	95%	/	/	95%
		年度末	95%			95%